①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・二等辺三角形の2つの辺の長さは等しいことを理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・折り紙を折って二等辺三角形を作り，重なり合った辺の長さや角の大きさが等しいことを学習している。

○共同追究でのゆさぶり

・形や大きさが異なる二等辺三角形の角の大きさについて，調べる経験は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・2年「長方形と正方形」で，長方形は形や大きさに関係なく4つの角は直角で等しいことを学習している。

教材研究ノート№3-B-1

≪学習問題≫

右の三角形は，二等辺三角形です。

「2つの辺の長さが等しい」ことのほかに，

いつでもいえることをみつけましょう。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し:二等辺三角形の2つの角の大きさは等しいと思う。

→角の大きさは紙を折って重ねれば比べられる。

②学習課題:二等辺三角形は本当に2つの角の大きさが等しいのか，紙を折ったり重ねたりして調べよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究:紙を折ったり重ねたりして二等辺三角形の角の大きさを比べ，等しいことを説明する。

④共同追究前半（予想の検討・解法の確認）

「二等辺三角形の2つの角の大きさが等しいことを説明しよう。」

→「紙を折ったらぴったり重なる。角度が等しかった。」

④共同追究後半（思考を深める）

「二等辺三角形なら，形や大きさが違っても2つの角の大きさは等しいといえるのかな？」

→「長方形も形や大きさに関係なく，4つの角は直角だった。」

「二等辺三角形の角についても，形や大きさは関係ない。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・角の大きさは，紙を折ったり重ねたりして比べられる。

・どんな二等辺三角形でも，形や大きさに関係なく2つの等しい辺に挟まれている角以外の2つの角の大きさは等しくなっている。

⑥定着･活用問題

次の三角形は，すべて二等辺三角形です。それぞれの二等辺三角形で，等しい角を見つけて印をつけましょう。

(1)　　　　　　(2)　　　　　　　(3)

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・二等辺三角形の角について，「2つの角の大きさは等しいだろう」という子どもたちの予想を引き出し，それを検証するように授業を構想したい。

・まとめの後，「正三角形の角の大きさはどうなっているのか」「三角形で，2つの角の大きさが等しければ二等辺三角形になるのか」といった子どもたちの疑問を取り上げておき，以後の展開につなげたい。

【板書計画】